

おおた健康プラン(第四次)(素案)に係るパブリックコメントに提出された意見要旨及び区の考え方

番号	分類	意見要旨 ※ページ数は、パブリックコメント 公表時点の素案に対応	区の考え方 ※ページ数は、令和8年1月時点の素案に対応	素案修正の有無 ※ページ数は、令和8年1月時点の素案 に対応
1	計画全般	「ウェルビーイング」を敢えて使用していないのか。	ウェルビーイング（身体的・精神的・社会的によい状態にあることで、短期的な幸福のみならず、将来にわたる持続的な幸福を含むもの。）は、成熟した社会における価値観の変化や生活の多様化などにより、その考えの重要性が増していると考えます。 区では、ウェルビーイングに関し、心身の健康だけではなく、社会的な面も含め満たされた状態という幅広い意味で捉えています。本計画では、この観点を踏まえるとともに中でも健康を主体に据え、区民の皆様の主観的健康感の向上に向けて取組を進めてまいります。	無
2	計画全般	テクノロジーは健康に利点とリスクの両面をもつため、現在の記載に加え、「テクノロジー×健康」の視点で区民への発信をしてはどうか。	情報通信機器・端末などの発達及び普及により、ICT(情報通信技術)による利便性を享受できる環境となった一方、スクリーンタイムなどの健康に対する悪影響も生じていると考えます。 区では、小学校の健康教育などにおいて、スクリーンタイムの影響について、普及啓発をしています。また、児童を通じて家族に健康の大切さを伝え、家族全体の健康づくりにもつなげていきます。	無
3	計画全般	健康に気を付けて頑張りたい。	誰もが生涯にわたって健康で生きがいを持ち、いきいきと暮らせるまちをつくれるよう、今後も取組を進めてまいります。	無
4	第4章	どこで、どのような内容のスポーツが行われているのか一覧でわかるような方法を考えてほしい。	気軽にスポーツを楽しみ、健康づくりに取り組むことは、生涯にわたっていきいきとした生活を送ることにつながると考えます。 身近なところで気軽に運動・スポーツができる環境整備やスポーツ等の健康づくり活動を通じた地域とのつながりの創出に向け、関係部局とともに、分かりやすい情報発信に努めます。	無
5	第4章	おおたランニングフェスティバルに参加し、大田スタジアムに初めて入ることができ感動した。 ただ、10Kmは少し短く、周回コースのために単調感がある。大田区の名所を結ぶフルマラソンの開催の検討をお願いしたい。	おおたランニングフェスティバルは、ランニング・ジョギングに気軽に取り組むきっかけを作ることで、区民の皆様のスポーツ実施率の向上及び健康増進を図る目的で実施しています。 より多くの皆様にご参加頂き日々の健康づくりにつながるよう、今後の企画検討の参考にさせていただきます。	無

番号	分類	意見要旨 ※ページ数は、パブリックコメント公表時点の素案に対応	区の考え方 ※ページ数は、令和8年1月時点の素案に対応	素案修正の有無 ※ページ数は、令和8年1月時点の素案に対応
6	第4章	近くに武道ができる公共施設が少なく通にくい。学校体育館などを開放して、区民向けに剣道・弓道などの武道教室を実施してほしい。地域には有段者も多く、健康増進にも役立つと思う。	武道などの運動は、健康づくりや健康づくり活動を通じた地域とのつながり作りに効果的であると考えます。 生涯学習ウェブサイト「おおたまなびの森」ではサークル(社会教育関係団体)を紹介していますので、状況や興味にあったサークルへのご参加をご検討ください。	無
7	第4章	PSA 検査の重要性を強く実感している。自治体で対応が分かれる中、65歳以上の男性へのPSA 検査を無償で毎年実施してほしい。	PSA(前立腺特異抗原)検査は前立腺がんの早期発見に有用であり、区では60歳、65歳、70歳の男性に対する補助を実施しています。補助対象者拡大については、他の自治体の動向などを参考にし、必要性を研究してまいります。 引き続き、前立腺がんの早期発見により重症化リスクを下げられるよう、PSA 検査の周知啓発に努めてまいります。	無
8	第4章	施策が幅広くなることは理解しつつも、総花的で区民に響きにくいと感じる。インパクトのある仕掛けで区民に気づきを与える工夫が必要ではないか。	健康づくりに取り組み、継続させていくためには、一人ひとりの心身の状況や生活習慣などに合うことが重要だと考えます。 区や事業者などの多様な主体が推進する様々な健康づくりに関する取組により、日常の中で意識や行動を少しでも変えていただき、一人ひとりの状況にあった健康づくりを実践し継続していただけるよう努めてまいります。	無
9	第4章	「女性の健康」施策を横断的に整理してどうか。 ①睡眠不足に起因した自殺増加、②婦人科系のがんを含む健診サポートの強化、③プレコンセプションケアについて検討が必要である。 また、P44冒頭の「働き盛り世代の男性の休養を確保することが課題」という表現は調査結果を踏まえていることは承知できるものの、社会的背景からみても女性の休養をないがしろにしていると受け取られかねない。	①区の調査では、睡眠で休養がとれていない人の割合は、男性では30歳代、40歳代で4割台と他の年代に比べて高く、女性では60歳代が4割台、30歳代、40歳代、50歳代が3割以上の結果が見られました。また、東京都健康推進プラン21(第三次)では、30歳代から50歳代で男女ともに約4割が睡眠が不足していると課題を示しています。これらを踏まえ、区では、就労世代の男性、女性のどちらも休養・睡眠に課題があると捉え、「基本目標1区分1施策3休養・睡眠」の現状と課題を修正します。 【該当箇所：P42、43】 ②区では、がんを早期に発見することで重症化を防ぎ、治療につなげていくために受診勧奨を推進しています。女性特有のがん検診の受診勧奨についても推進しているため、「基本目標1区分3施策3女性の健康」の施策の方向性に追加し、区民の取組においても、定期的な検診受診の必要性について追加します。【該当箇所：P80、P81】 ③若い世代からプレコンセプションケア(若いうちから性や健康に関する正しい知識を身に付け、健康づくりを実践すること。)に興味・関心を持っていただき、取り組むきっかけとなるよう「基本目標1区分3ライフコースアプローチを踏まえた健康づくり」に追記します。また、男女を問わず、性や妊娠に関する正しい知識を身に付け健康管理を行っていただけるよう周知啓発に努めてまいります。【該当箇所：P68】	①【P42】睡眠で休養がとれていない人の割合には性・年代差が見られることを追記します。 ①【P43】男性だけではなく、女性の課題も捉え、内容を修正します。 ②【P80】女性特有のがん検診の受診勧奨について追記します。 ②【P81】定期的な検診・健診の必要性について追記します。 ③【P68】若い世代からプレコンセプションケアに興味・関心を持って頂き、取り組むきっかけとなるよう追記します。

番号	分類	意見要旨 ※ページ数は、パブリックコメント公表時点の素案に対応	区の考え方 ※ページ数は、令和8年1月時点の素案に対応	素案修正の有無 ※ページ数は、令和8年1月時点の素案に対応
10	第4章	経済的、家庭的理由から十分に食事をとれていない子どもについて触れないのか。子ども食堂等の施策は福祉の領域か。	食えることは生きるための基本であり、子どもの健やかな心と身体の発達に欠かせないものと考えます。子ども食堂については、おおた子どもの生活応援プランにおいて子ども食堂推進事業として重点的に取り組んでいます。今後も、関係部局とともに子どもの健康や地域の居場所づくりなどに取り組んでまいります。	無
11	第4章	健康の重要な要素は食事だと考える。給食や学校での栄養教育を通じて、健康を作るためには何が必要か、学ぶ時間を強化してほしい。	区では、小学校にて健康教育を実施し、バランス良く食べることなど食を通じた健康づくりを伝えています。また、区立学校全校に食育推進チームを組織し、学校における食育の中核となる食育リーダーを配置していることや指導の全体計画と各学年の年間指導計画を作成し、実践しています。 引き続き、関係部局と連携し、健康教育や学校給食などを通して食育を推進してまいります。	無
12	第4章	忙しい方でも、生活習慣病の予防や健康増進ができるように、ウェブサイトや動画などで、メニューの提案や食生活についてのアドバイスを受けられるようにしてほしい。	各地域庁舎では、主に対面で大人の食事相談を実施しています。今後、必要性に応じて誰もが相談しやすい手法について調査・研究してまいります。	無
13	第4章	小学校や企業で実施している運動や睡眠に関する健康教育をさらに強化してほしい。また、ウェブサイトなどでも学べるようにしてほしい。生涯教育などに関連して、まなびの森などで講義を受けられるようにしても良いと考える。また今後は生成AIの活用なども考えて欲しい。	今後も、小学校や企業等の健康教育を通じてニーズや健康課題を捉え、効果的な健康教育となるよう実施してまいります。 また、生涯学習ウェブサイト「おおたまなびの森」では栄養やがん検診などの講座等を掲載しています。引き続き、様々な媒体にて、健康づくりや健康に関する安全・安心につながる情報発信の充実を図ってまいります。 なお、生成AIの活用については、社会情勢などを見ながら必要性を研究してまいります。	無
14	第4章	精神疾患の方への差別や誤解がないように、理解啓発を進めて欲しい。	精神疾患についての正しい知識を啓発することは、疾患への理解が進み、当事者に対する差別や偏見の解消につながります。また、正しい知識を得ることで、早期のメンタル不調の認知や受診につながると考えています。 引き続き、正しい知識の周知啓発や当事者に対する差別解消に取り組み、不調時には誰もが躊躇することなく適切な医療機関などにつながることをできるよう努めてまいります。	無

番号	分類	意見要旨 ※ページ数は、パブリックコメント 公表時点の素案に対応	区の考え方 ※ページ数は、令和8年1月時点の素案に対応	素案修正の有無 ※ページ数は、令和8年1月時点の素案 に対応
15	第4章	自殺対策だけでなく生活困窮をしたときにヘルプやSOSが出せる学校教育を進めて欲しい。成人に対しても人に頼ることの重要性を伝えて欲しい。	区では、SOSの出し方に関する教育により、様々な困難・ストレスへの対処法を身に付けることができるよう取組を実施しています。また、家庭課題を抱えた親や問題を認識できない子どもが公的支援につながりにくい現状を踏まえ、令和4年度から福祉人材育成・交流センターを設置しました。福祉職員への研修や交流を通じて包括的な相談支援や多機関連携を強化し、早期発見・支援を推進しています。 引き続き、制度の狭間を防ぐ切れ目ない支援を進めます。	無
16	第4章	国、東京都の喫煙率はそれぞれ「12%」「10%未満」の目標である中、区の目標である6%はやや行き過ぎの感があり反対である。区は、国の喫煙率12%をクリアしているため、次の計画では、具体的な数値目標を掲げるのはやめて、「減少する」や「下げる」などが適切ではないか。大田区のプランでも「喫煙する人とならない人の共存」をうたっており喫煙率の目標だけを著しく強化するのは整合性が取れていない。 (他、4件)	区では、喫煙する人とならない人が共存できる環境の実現に向け取組を進めていますが、喫煙によるCOPD(慢性閉塞性肺疾患)、がんなどの健康被害、それに伴う医療費増加等の問題を解消するためにも喫煙率の低下は必要であると考えます。 いただいたご意見および国や都の現状値及び目標値を達成している状況を踏まえ、「基本目標1区分1施策4飲酒・喫煙」の数値指標「たばこを吸っている人の割合」の数値目標を「減少」に変更します。【該当箇所：P44】	【P44】数値指標を「6.0%」から「減少」に変更します。
17	第4章	国や都の計画と同様にCOPDによる死亡率を目標数値に設定すべきである。	COPDは禁煙等により発症予防が可能であり、発症しても服薬により重症化を予防することが可能であるため、区では、COPDに関する周知啓発に取り組んでいます。COPDについては、国の健康日本21(第三次)及び東京都健康推進プラン21(第三次)では、予防・早期発見を通じた死亡率の減少を目標としており、区においても同様の目標が必要であると考え、「基本目標1区分1施策4飲酒・喫煙」の数値指標に「COPDによる死亡率(人口10万対)」を指標に追加します。【該当箇所：P44】	【P44】「COPDによる死亡率(人口10万対)」を指標に追加します。
18	第4章	蒲田駅、大森駅など喫煙場所は整備されつつあるがまだ少ないため、喫煙所を増やしてほしい。 (他、3件)	区では、喫煙する人とならない人が共存できる環境の実現に向け、喫煙マナーを周知徹底するとともに、分煙環境の整備など総合的な取組を進めています。 引き続き、民間事業者と連携した公衆喫煙所の整備が進むよう、公衆喫煙所整備及び運用の目標値を設定して取組を推進してまいります。	無

番号	分類	意見要旨 ※ページ数は、パブリックコメント 公表時点の素案に対応	区の考え方 ※ページ数は、令和8年1月時点の素案に対応	素案修正の有無 ※ページ数は、令和8年1月時点の素案 に対応
19	第4章	<p>喫煙者は多くの税金を納め納得して吸っている。入った税金から事業の保証をして店をやめさせてほしい。「たばこ税」の原資を用いて、喫煙所の整備及び新たな喫煙所を作るという事を強く要望する。</p> <p>公衆喫煙所設置等助成制度はあるものの、維持費用の助成金額が比較的少額であり、大田区の特別区たばこ税の収入額は、毎年50億円以上あるため、維持管理費の助成金額を拡充してほしい。</p> <p>(他、1件)</p>	<p>地方税法では、税の種類によって目的税と普通税に大きく分けられています。目的税は使い道があらかじめ定められており、特定の目的に課される税です。市町村たばこ税は地方税法上、市町村民税と同様に普通税と規定されています。普通税は目的税と違い、使い道が地方税法や条例で決められておらず、広く一般経費に充てるために課される税です。</p> <p>引き続き、喫煙する人としらない人が共存できる環境の実現に向け、取り組みを進めてまいります。</p>	無
20	第4章	<p>国や都、区の数値を並べるだけではなく、区独自の視点を盛り込んだ大田区らしい健康施策があっても良いと思う。例えば、銭湯に入ることによる健康効果などの数値があっても良いのではないか。また、健康施策だけでなく、観光施策や環境施策との兼ね合いのような独自の大田らしさがあると良い。</p>	<p>はねびよん健康ポイントでは、区内の施設や観光名所をめぐるウォーキングコースや、銭湯などの区内約600箇所に設置した、はねびよんスタンプを獲得できるスタンプリーなど、楽しみながら健康づくりを継続できる機能を搭載しています。区の特徴を活かした健康施策の企画立案の検討に、ご意見を活かしてまいります。</p>	無